

人間関係の構築における環境変化の影響に関する研究 学生 氏名 富永夢人  
指導教員 上村 浩

## 研究背景

人間関係の広さや深さといった構造と、個人の志向性や行動形態は、相互依存的である、という意味から重要である。このことを前提に、本研究では人間関係の構造が大きく変化する可能性が高い大学生を対象に、高校から大学といった物理的な変化を伴う時期を対象とし、人間関係の構造変化が及ぼす心理的影響およびこれに伴う行動変化について検討する。

## 研究目的

「大学入学後に高校までの友人関係（地元の人間関係）が疎遠になるなど大きな変化が生じた人は、そうでない人（高校までの友人との繋がりが継続している）と比較して「大学生活」に対する充実度（主観）が低い。」という仮説を設定し、それを検証する。

## 研究方法

2024年入学の大学2年生56名に了承を得た上で、アンケートを実施し、その結果を分析した。

## 分析結果

本研究のアンケート結果から、仮説より、出身と現在の大学生活の満足度は「マイナス」の相関であったため、高知県出身でない人ほど現在の大学生活の充実度は低くなっている。

## 考察・結論

地元の人間関係から物理的に切り離された状況におかれた人は現在の生活の充実度が低い可能性が高いことを示唆している。しかし、他の検証結果と総合して解釈すると、新たな人間関係を構築することで、現状の満足度を少しでも増そうとする、といった行動形態があることが十分に想定される。すなわち、地元を離れることで、新たな人間関係が広がる可能性がある。